

2020年度事業計画

I. 公益財団事業計画と予算の議決及び事業報告と決算の承認等

執行担当	定款	執行内容（定款条文の要点抜粋と関連重要事項）	準備担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
評議員会	16条 17条	第16条（権限） （1）理事及び監事の選任又は解任（2）理事及び監事の報酬等の額（3）貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認（4）定款の変更（5）残余財産の処分（6）基本財産の処分又は除外の承認（7）その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項 第17条（開催） 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。	総務局			↑									
理事会	8条 9条 31条	理事会の承認事項 第8条（1）事業計画書、（2）収支予算書、（3）資金調達、（4）設備投資見込み 第9条（1）事業報告（2）事業報告の附属説明書（3）貸借対照表（4）損益計算書（正味財産増減計算書）の附属説明書（6）財産目録 理事会の職務 第31条（1）この法人の業務執行の決定（2）理事の職務の執行の監督（3）理事長、副理事長、及び常務理事の選定及び解職	総務局			↑	↑								↑
常務理事会	24条 1～3項	常務理事は理事会の議決に基づき日常の事務に従事する。常務理事は理事会の承認に基づく下記事業計画の推進に務める。 重要事項 1. 機関誌 腸内細菌学雑誌34巻2～4号、35巻1号の発行・配布及び英文合同誌 Bioscience of Microbiota, Food and Health39巻2～4号、40巻1号の発行の協力 2. 期待される機関誌にするための諸施策への取組み（和文誌の特徴化と充実及び英文合同誌充実と発行への協力） 3. ホームページの改訂・充実 4. 腸内細菌学会の準備・開催 5. JBF研究奨励賞の選考及び授与 6. 企画総務国際委員会の審議に基づき、財団の将来的な方向性に関する検討 7. その他財団の運営に関する事項の決定	総務局・各委員会			↑						↑			

定時評議員会
1. 左記の第16条に記載の(1)～(7)項に関する審議、承認。

第1回理事会
左記9条の(1)～(6)項の審議、承認

第2回理事会
1. 当年度事業経過の報告

第3回理事会
1. 当年度事業経過及び財政状況の報告
2. 左記8条の次年度に関する(1)～(4)項の審議、承認

第1回常務理事会
1. 前年度事業、収支決算確認

第2回常務理事会
1. 腸内細菌学会総括
2. 事業遂行予定討議

第3回常務理事会
1. 事業遂行状況確認
2. 財務状況確認
3. 当年度決算見込み確認

第4回常務理事会
1. 次年度事業、予算素案討議
2. 財務状況確認

第5回常務理事会
1. 次年度事業、予算修正案討議

第6回常務理事会
1. 次年度事業計画、予算案決定
2. 当年度事業遂行状況確認

2020年度事業計画

II. 事業計画－1

執行担当	事業計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
編集委員会	<p>1. 出版・情報提供事業</p> <p>1) 機関誌（英文、和文）の編集発行 国内外のビフィズス菌・乳酸菌を始めとする腸内細菌学研究的展開は目を見張るものがあり、主要な細菌のゲノム解析は一段落し、プロテオーム、メタボロームといった解析へと急速に進んでいる。また、腸内細菌叢の持つ機能は既に一般の人々にも浸透してきており、この分野の研究成果に対する期待は高く、より高度な専門性と学際性が要求されている。このような観点から、当財団は以下の様な機関誌の改革を行ってきた。 和文誌「腸内細菌学雑誌」は、ワーキンググループによる内容の精査・検討を行った。そして、総説では、「腸内菌叢はコントロールできるか」の特集を32巻3号から開始しており、34巻1号で終了した。加えて、内容の更なる充実のため、次の特集について委員会で検討し、「腸内菌叢と癌との関連、その最新情報」とした。また、腸内細菌学会の発表演題をもとにした総説の投稿依頼をしていくこととした。 英文誌“Bioscience of Microbiota, Food and Health”は、腸内細菌学会、日本乳酸菌学会および日本食品免疫学会の三団体合同機関誌として発足後、順調に投稿数を増やすと共に、Impact Factor取得に向けた取り組みを行い、昨年度にIF2.488の評価を得た。 以下、今年度の計画案を示す。</p> <p>2) 「腸内細菌学雑誌」の発行 本誌は、原著、総説、研究室紹介、特許情報などを掲載してきた。今年度もワーキンググループによる更なる内容の精査・検討を重ね、より魅力的な内容をもった機関誌として発展させたい。なお、総説では、新たな企画として「腸内菌叢と癌との関連、その最新情報」の特集を34巻3号から開始する予定である。</p> <p>3) “Bioscience of Microbiota, Food and Health”の発行 本誌の発行には上記三団体が共同で設立した「BMFH出版会」があたる。当財団編集委員会は当財団から選出されたBMFH誌編集委員と協力して、質の高い原著や総説の掲載とその原稿の確保に努力する。なお、BMFHのIF取得に伴い、投稿の有料化を行い、発行コストの削減のため他団体と同様に冊子配布を廃止とする。</p>	↑ 英文誌 39巻 2号発行 の協力			↑ 英文誌 39巻 3号発行			↑ 英文誌 39巻 4号発行 の協力			↑ 英文誌 40巻 1号発行		
		↑ 和文誌 34巻 2号発行 配布			↑ 和文誌 34巻 3号発行 配布			↑ 和文誌 34巻 4号発行 配布			↑ 和文誌 35巻 1号発行 配布		
			↑ 編集 委員会			↑ 編集 委員会			↑ 編集 委員会			↑ 編集 委員会	
情報広報委員会	<p>2) 情報提供掲載</p> <p>(1) ホームページの見直しと充実を進める。 (2) “用語集”や“よくある質問”など情報提供内容の大幅な整理を行い、項目を増やすことにより、財団事業に関連する学術的な情報を充実する。 (3) スマホ対応への改良を進める。 (4) 年2回の定例情報委員会と、委員会のメールによる情報交換により、ホームページの定期的な情報更新と迅速な対応を行う。 (5) メーリングリストにより、随時当センターに関連する学術情報発信を会員向けに行い、必要があれば臨時の情報委員会を招集し対応する。</p>		↑ 情報広報 委員会					↑ 情報広報 委員会					

2020年度事業計画

11. 事業計画－ 2

執行担当	事業計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学術委員会	<p>1. 学術集会事業</p> <p>1)学会の開催 当財団事業の目的は宿主と微生物との関係に関する研究の学際的な取組みを産学が協同して支援することにある。本事業は機関誌の発行と並んで当財団の重要事業である。 (1) 本年度の第24回腸内細菌学会学術集会開催要項 日時：2020年6月11日（木）・12日（金） 会場：札幌サンプラザ 大会長：綾部 時芳（北海道大学） メインテーマ： 『腸内細菌と宿主の共生 ーライフコースの健康と病気を紐解くー』 構成： ・海外特別講演 Andre J. Ouellette (Department of Pathology & Laboratory Medicine, Keck School of Medicine of USC, University of Southern California) ・特別講演 山田 拓司（東京工業大学生命理工学院） ・シンポジウム1『宿主からみた共生・腸内細菌からみた共生』 1. 鈴木 敬一朗（理化学研究所 生命医学研究センター） 2. 中村 公則（北海道大学大学院 先端生命科学研究院） 3. 辻 典子（産業技術総合研究所 バイオメディカル研究部門） 4. 小田 卷 俊孝（森永乳業（株）基礎研究所） 5. 平山 和宏（東京大学大学院農学生命科学研究科獣医公衆衛生学教室） 6. 倉島 洋介（千葉大学大学院医学研究院 イノベーション医学） ・シンポジウム2『Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD) と腸内細菌』 1. 基調講演：山城 雄一郎（順天堂大学大学院プロバイオティクス研究講座） 2. 木村 郁夫（東京農工大学大学院農学研究院 代謝機能制御学研究室） 3. 下条 直樹（千葉大学大学院医学研究院 小児病態学） 4. 松木 隆広（（株）ヤクルト本社中央研究所基盤研究所） 5. 三上 克央（東海大学医学部専門診療学系 精神科学） ・腸内細菌学会研究奨励賞受賞講演 一戸猛志（東京大学医学研究所 感染症国際研究センター） 赤川翔平（関西医科大学 小児科学講座） ・市民公開講座 6月11日（木）14：30～16：30 『健康になる食事と腸内細菌』 國澤 純（医薬基盤・健康・栄養研究所） 福田 真嗣（慶應義塾大学先端生命科学研究所） 吉野 正則（日立北大ラボ、北海道大学COI拠点） ・一般演題A（口頭発表+ポスター：若手あるいは萌芽的研究）：31題 / B（口頭発表のみ）：12題 / C（ポスターのみ）：20題 一般演題Aより最優秀発表賞（原則1名）を選定し表彰 ・情報交換会 6月11日（木）18：00～19：30 ・閉会の辞 次年度大会長（阿部文明・森永乳業）（予定）</p>				↑				↑				↑
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>学術委員会 I</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2020年度学術集会の総括 ● 2021年度学会大会長の学術集会構想の提案(大会会場・日時・テーマ・特別講演・シンポジウム案など) ● 2021年度の大会長の紹介 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> <p>2020年度学術集会開催 6月11日, 12日</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学術委員会 II</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2021年学術集会 特別講演者、シンポジスト決定 ● 一般演題募集要領 ● 座長等、当日の役割分担の決定 ● 開催案内パンフ内容の決定と発送 ● 2022年度の大会長候補の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学術委員会 III</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2021年学術集会 一般講演プログラムと座長の決定 ● 準備状況確認 </div>											
委員倫理	1. 当財団倫理規程に則り、利益相反、研究結果の公表規範に関する規定の遵守について検討し、必要な対応をおこなう。							原則年1回開催					

2020年度事業計画

II. 事業計画－ 3

執行担当	事業計画内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
選考委員会	<p>3. その他事業</p> <p>1) 腸内細菌学会研究奨励賞候補者の募集 研究振興の一環として腸内細菌学会研究奨励賞を該当者に授与し、当該研究領域の発展を促す一助とする。1999年に創設し、2019年までに43名に授与している。(一部削除)近年応募も順調に推移しておりその傾向が今後も継続するように本賞に対する周知度向上を図る。そのために公募方法の見直し等を含めて検討を続け、当該領域の研究の奨励に貢献できることを目指す。本事業は当財団の重要な公益事業の一つと位置づけている。</p>			↑					↑		↑		
企画総務国際委員会	<p>2) 公益財団法人発足第5年度－研究の趨勢に応じた事業の強化発展策の検討 本委員会は財団の継続発展の観点から、その運営の改善及び既存事業の見直し、さらには国際化対応を含めた新規事業計画の立案等を行い、常務理事会に提案することが主業務になっている。2017年度は現在いわば第二の学術的ピークを迎えて注目されている当財団の訴求する学際分野を次世代に繋がる継続的発展をはるための方向性を考える議論を行った。その結果当財団の方向性に対して会員の意見を聞くことが重要とされ、会員対象のアンケートを実施した。2018年度はアンケート結果を参考に審議を進め、理事・評議員からの意見も参考にし、定款の改訂や名称変更を含めた将来に向けた具体的な行動計画を立案し、常務理事会、理事会に提案した。2019年度はこの計画を評議員会に提案し承認いただいた。また2019年度より財団の財務状況改善や将来にわたる若手研究者育成の方法などについて検討を続けそれらの意見を常務理事会、理事会に提案した。2020年度はそれらの具体的な進め方について検討をおこなう。</p>												
推薦委員会	<p>3) 出版物、映画、DVD等の推薦 プロバイオティクス、プレバイオティクス、バイオジェニクスおよび腸内菌叢などの生体に及ぼす影響、あるいは生体防御機能に関する紹介を含む啓発的出版物、映画、DVD等で当財団が行う事業の趣旨に沿い、かつ偏向がなく、科学的な評価に耐え得る内容の作品であって、当財団の推薦を受けたい旨の申し出があった場合、所定の手続きを経た作品については財団として推薦する。 本推薦の事業は公益事業の一つと位置づけて取り組む。推薦は公平性を期し、推薦の要望がある課題ごとに理事長の委嘱を受けた委員による推薦委員会を設けて討議された結論に基づき、理事長がその旨を要望者に報告する。</p>												

第24回腸内細菌学会
 で2019年度の受賞者
 (2名)表彰と受賞講演

2020年度
 選考委員会

常務理事会
 審議決定、選考
 結果アナウンス

2020年度
 候補者募集要項の
 アナウンス

2020年度事業計画

III. 事業補強計画

<p>常務理事会</p>	<p>1. 財団事業の普及・発展による公益性の向上 食品と免疫、腸内菌叢と免疫、この二つの主要課題への関心が高まっている。いずれも宿主の免疫機構を介した健康の増進あるいはその回復、維持に関わるものであり、それぞれの研究成果は共通し、あるいは相補うものである。それらは「宿主と微生物との共生」というコンセプトに基づく研究領域へと拡大し、関係の研究者は広範囲に及んでいる。それは身体状況に関する領域ごとに行われてきたこれまでの考察、すなわち栄養学、免疫学、細菌学などといった個別的な範囲内での考察にとどまってきたが、それらがライフサイエンスという共通の視点で語られるようになってきたことによる。いくつもの領域から関心が寄せられているこの研究の在り様は統合的にハイブリッドサイエンスの誕生とも称されている。このような潮流に乗り遅れることなく、当財団が設立の当初から堅持してきた学際的且つ産学共同で事業に取り組むという運営上の基本方針を有効に活用し、既存事業の見直し、新事業の立上げなどを通じ、財団事業の公益性向上に努めていく。</p>	<p>当財団設立趣意書にいう当該分野の学際的研究の推進に寄与するという点から、その主要事業を通じて関係情報発信の活発化と成果発表の場の提供の拡大を図り、関係大学、研究機関、企業の研究者の関心を高めたい。また、一般向けの公開講座、研修会等の開催の可能性を検討し、本財団の公益性を高める一助に加えていきたい。</p>
<p>／ 企画総務国際委員会</p>	<p>2. 財団支援体制の強化（特別会員、団体会員、個人会員増対策） 当財団の事業活動はそれに賛同し、協力いただいていた会員各位からの支援によって支えられてきた。これは今後の財団事業の継続においても欠かせない重要な支援である。それに十分に応え得る事業内容であるように充実を図る。また、新規支援の依頼を広く行う必要があり、そのための施策を行う。</p>	<p>財団機関誌、記念書籍の割引配布、機関誌掲載論文別刷料金の割引、学会への招待、ホームページのリンク化など。</p>
<p>／ 総務局</p>	<p>3. DVD「共生のはじまり」の有効活用 3-1) 教育施設への貸し出しと関連の講演 青少年の科学離れ対策の一環として、財団設立30周年記念DVD作品「共生のはじまり」の教育施設への貸し出しを行う。その際、要請があれば、関連の講演を行う。さらには本DVDの制作を担当されたアイカム社所蔵の関連DVDの借用を要請し、活用を図る。（ホームページ掲載予定。） 3-2) DVDの贈呈・寄贈 腸内細菌学会(海外を含む) 特別講演者に Tissier Medal と併せて本 DVD を寄贈する。また、特別会員新規加入企業に寄贈する。</p>	